St.Luke

The 2002 annual report

年報

2002.4.1
〜
2003.3.31

● 医療法人セント・ルカ ●

セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目次

巻頭言 1

この一年を振り返って

心理専門相談室 3

看護部 4

研究室・検査室 5

事務部 6

情報処理室 7

診療統計

外来・入院数 10

妊娠数 12

外来患者及び妊娠結果の内訳 14

初診後妊娠までの期間（グラフ） 16

腹腔鏡検査後妊娠までの期間（グラフ） 16

AIH（人工授精）による妊娠（グラフ） 17

ART（体外受精）による妊娠（グラフ） 17

ARTによる妊娠 18

ARTによる出産および出生児の状況 18

セント・ルカ産婦人科一年のあゆみ 19

行事一覧 20

論文一覧 28

著書（共著）一覧 29

院内活動

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明 30

スタッフ配置 33

病院概要 34

巻頭言

宇津宮隆史

今年で開院12年目を迎えた。開院が1992年であり、生殖補助医療（ART）領域でもICSIの成功がこの年で、このARTの発展に伴ってわれわれも活動してきたことになる。その間にさまざまな技術や方法が報告され、またいろいろな問題が指摘され、それらに対してわれわれもひとつひとつ「自分ならはどう考えるか」と対応してきた。妊娠数は全体で3000件を超え、またARTによる妊娠も 1000 件を超えた。全体の妊娠率 47%、最後まで治療した場合の妊娠率77.7%、これらはわれわれの行ってきた方法が間違っていなかったことを示すものであろう。しかしわれわれの関心はただ単に妊娠率にとどまってはならないことに気がついたのも開院以来多くの患者さんに接してきて得られたことである。患者さんへのサポートはただ妊娠率に代表される医学的サポートに限らず、社会的なサポート、精神的なサポートの 3 つの大きな柱がある。医学的サポートのひとつに胚培養士資格試験が実行されて 2 年になった。当院では 8 名全員が合格している。これでエンブリオロジストの技術水準と身分が保証されることになったのは喜ばしいことである。

技術、研究面では、胚盤胞期移植が通常の 3 日目移植に比べてそれほど効果的でないことはProspective randomized studyによって明らかにした（Human Reprod. 2002.7）。またVitrificationが盛んに行われるようになったが、今までの方法では液体窒素からの感染は危惧されるのでわれわれは行わなかった。そしてより安全な方法を確立するため、マウス胚を用いて半年以上かけて基礎実験を行い、満足行く結果が得られたのでヒトの3PN胚で確かめ、その結果臨床に応用し、すでに何人もの妊娠例が得られた（K&K 法：2003 年度受精着床学会世界体外受精会議記念賞候補）。基本的に安全な方法を模索し努力した結果であり、地道な基礎実験を重ね、慎重で謙虚な評価を行って得られた貴重な成果と思う。

社会的なサポートの大きな部分を占める経済的問題については、「不妊治療の保険適用を実現するの会」の山口歩さんとも連絡をとりながら、昨年2002年9月と12月に全国のART施設に呼びかけて不妊診療の保険適用を含む公的補助を求める署名運動を 2 回にわたって繰り広げた。そして大分県選出の衆議院議員釘宮磐先生のお世話で 2 回とも国会請願を行った。そして釘宮先生は厚生労働委員会において 4 回もの質問を坂口厚生労働大臣にしていただき、ついに厚生大臣の口から「何らかの補助を行う」という回答を得られた。釘宮先生は大分市長になられたが、その初めての具体的市政に不妊治療への補助を発表された。

県としても大分市にせかされるように補助を決めた。大分県の患者さんは等しく補助を受けられるようになった。この動きが全国の市町村への呼び水になればよいと思う。しかし最終的には補助よりも保険適用であろう。これに向かって今後も活動を続けたい。
次に精神的サポートは看護部門の最も大きなテーマである。いわゆる「カウンセリング」は最終的にはナースや医者が片手間にカウンセリング・テクニックを身につけて解決できるものではないことがわかった。そこで当院では専門の知識と技術を身につけた心理士にきてもらい、すべてを任せることにより、本当に深い悩みを持った患者さんが次々に明るくなっていった。この事実を目の当たりにしたとき、患者さんの心理的サポートの効果的な正しいプログラムが明らかとなってきた。今後はこの当院の経験を全国のART施設に広げることがわれわれの使命であろう。さらにまた、今年度から年齢や各種の原因により結局は子どものいない生活を選ばざるを得ない患者さんへのサポートが最終的な目的のひとつとして上げられている。
目先の評判にとらわれることなく、地道でも患者さんの安心と満足を目指してまたことしもスタッフ全員、またたまには患者さんも巻き込んで元気に活動したい。

一年を振り返って

心理専門相談室

最近は不妊治療への関心が高まり、マスコミに取り上げられることも増えてきていますが、両刃の剣で偏った情報に目を奪われ、偏見を助長する危険性も多くなってきていると危惧されます。

華々しい話題とは裏腹に不妊治療に携わっている私たちは日々地道に努力を重ねており、患者さんも自分たち夫婦の赤ちゃんが欲しいと強く願って治療を続けておられることに変わりはありません。

この一年間も患者さん方が望みを叶えるまで不妊治療を続けていくことができるように、スタッフ一同、いろいろなサポート体制で臨んできました。

心理専門相談室では、患者さん方の様々な悩みについてお話を伺ってきました。なかなか治療がうまくいかず、疲れて気力が無くなった、流産後のショックから次の治療への不安が強くなってしまったという訴えも多く聞かれました。悲しみを無理に抑え込まないで自分の気持ちに素直に向き合い、表現することで癒されることは多いものです。（その過程を無視して前にばかり目を向けることで負担が掛かっていることがよくあります）それが夫婦間でできるのが一番なのですが、なかなか難しい現状があるようです。二人の気持ちのずれがある場合は、殊に深刻です。十分なカタルシスの場として相談室を利用していただきたいと考えています。

この一年、ご夫婦にお話を伺う機会も多くありました。仲の良いご夫婦が多いのですが、気持ちの表し方、望ましい夫婦の形に男女差が見られ、そのことが、お互いの不満となっていることが多いと感じられるようになってきました。男性は自分は強く支える方で、何も言わなくても理解し合える夫婦になりたいと思い、女性は同じ気持ちで悲しんだり、悩んだり、言葉に出して確認し合いたいと思う人が多いようです。どちらが一方的に良いわけでも、悪いわけでもなく、お互いに違いを理解し合うことが重要だと思われます。二人だけでは難しい場合は、ご夫婦の話し合いの場としての機能も相談室は担っていると思われます。

また、妊娠困難な患者さん、特に40歳以上の高齢の患者さん方のサポートにも努力してきました。同じ境遇にある患者さん同士のサポートグループを作り、定期的に開催してきました。この取り組みは、孤独感の解消、情報の提供による不安の緩和、治療意欲の向上などの効果が得られることが明らかになりました。この取り組みの成果は今年度の九州不妊学会で発表させていただきました。開催方法などについて質問をいただきました。

患者さんのサポートと一口に言っても、大変奥の深いものであるとますます痛感しています。また、患者さん方の心理的サポートは如何にあるべきか真剣に検討していく必要があると思います。

本当にありがたいことに、この心理的サポートについて、院長先生始め不妊に携わる先生方の間で理解してくださり、「臨床心理カウンセリング」を形にしていこうという動きが日本でも始動しています。どのような発展をしていくのか、期待に胸を膨らませています。

本相談室でも、自分たちの子どもが欲しいと望んでおられる患者さん方のお役に立てるよう、今後共、実践と研究に精進させていく所存です。よろしくおねがいします。

心理専門相談室　上野桂子

看護部

毎年、正月明けの仕事始めは、午後から行われる院長声かけの新年会でスタートします。院長と奥様、そしてスタッフだけという内輪の新年会は、院長が自慢のワインを開け、厨房さんは精一杯腕を振るっておせち料理を作り、みんなはその料理に舌鼓を打ちながら今年の抱負を述べるのですが、その雰囲気は、正月ボケとアルコールも加勢してとても家庭的で和やかに進みます。開院当初の新鮮なこころが蘇ります。会の終わりに院長は、私達に今年の課題を下さいました。課題は、「生殖医療の現場で働くプロとして、個人の生命倫理観を持つべく勉強をする事」でした。ここ数年、生殖医療のあり方が論じられています。

2年前、夫婦の受精卵を妻の妹の子宮に移植し妹が妊娠、出産した事が明らかとなりました。この事がマスコミに大きくクローズアップされたことで、世間一般の人が不妊治療そのものを大いに誤解してしまった感があります。実際に患者さんの最も近くにいる私たちは、子供が欲しいとひたむきに治療されている方のほとんどが「あなたと私」の子供が欲しいと思っている事、経済的に逼迫し治療の継続が出来ないこと、子供が出来ないことで心がとても傷ついているため、心のケアが求められている事等の不妊治療現場の生の声を代弁者として、治療が誤解されてとられない様世間の人々に知ってもらう働きかけが、プロとしての責任だと考えます。院長を中心に頑張ります。

7月16日付けの読売新聞に「不妊治療、出産者が母」の見出しで、不妊治療で第三者から卵子や受精卵が細胞分裂した状態である胚の提供を受けた場合の母子関係について、出産した女性を法律上の実母とすることなどを柱とした民法の特例試案をまとめた。等の内容が掲載されていました。新年会での先生からの課題を、スタッフ全員が真摯に捉え、より一層の勉強が必要だと新たに感じています。

患者さんへの働き掛けの一つなのですが、7月半ばの土曜日に「赤ちゃん今ならきっと授かる」講座が開催されました。対外的に3ヵ月毎に行われる講座です。講座の中には毎回、不妊治療を経験し現在母となられている方のお話が盛り込まれています。この日、Yさんは静かな口調で語ってくださいました。重症の内膜症だったこと、腺筋症もあったこと、そして5年間の不妊治療を経験した末、女児を抱けた事を話されました。「治療の継続はきつく辛い日々でしたが、夫の協力とやさしい言葉掛けがあったからこそ諦めないで続けられました。皆さん諦めないで下さい。今日はこの一言を伝えたい。そして御主人さんは奥様にやさしくしてあげて下さい。」と結んでいました。

「諦めないで治療を続ければきっと赤ちゃんが授かる事」が参加者全員にしっかりと伝わったと感じました。

今当院では、顕微受精をされてる方で、卵は採れて胚移植も出来るのだが、なかなか妊娠に至らない患者さんにRESA　ICSIを勧めています。夫の協力がないと出来ません。何回か患者さんから「夫は仕事が忙しくて手術はできません」や「手術の話をしたらその後口をきいてくれません」等の相談を受けました。看護部では常に御夫婦で共に治療を進めて

くださいと相談の折や各講座の度にお話を繰り返しています。一年間の不妊原因をデーター処理した結果、男性不妊が 6 割を越えてきています。男性の立場等も理解しながら、夫はもっと治療に目を向けて妻の良き傍観者ではなく、現実をきちんと受け入れて、妻と肩を並べ、目線が同じ位置にあるという働き掛けが看護部での急務と思われます。チャンスだと捉え、前向きに進めるようサポート出来ればと願います。

また、昨年から病院一丸となっての不妊治療の保健適用運動も、助成金という形ですが今年の 8 月からスタートし始めます。さらに、全面保健適用に向けて再度の国会請願の準備も始めました。　今一歩です。一層の努力を続けていきます。

いつ、どこで、誰に問われても個々の倫理観を持つべく勉強する事、そして、生殖医療の現場にて、いますぐやらなければいけない事を進めていく事の積み重ねが、不妊治療継続のサポートとなり、最終目的である「我が子を抱く喜び」に繋がるよう、スタッフみんなで山積されている諸問題に向かって取り組んで行きたいと思います。

看護部　指山　実千代

研究室・検査室

セント・ルカ産婦人科研究室は昨年で 10 周年という節目を迎え、11 年目となる今年は初心に返り体外受精業務および研究課題に取り組んできました。

近年では培養系の改良が進み、以前では困難であった後期胚培養も随分安定したものとなってきました。そのため、胚が透明帯から脱出したことを確認し、最も viability のある胚を選別、より生理的な状態で移植することが可能な Hatching 期移植が可能となりました。それに併せて古くから検討され続けてきた AHA(assisted hatching) の効果も prospective random に検討しましたが、Hatching 期移植、AHA は必ずしも有効ではないという結果に至りました。また、体内受精(人工授精等)における流産の原因の約 80%は染色体異常が原因であることに対して、Hatching 期移植後流産に至った患者さんでは約 60%が染色体異常を原因として流産に至っていることが分かりました。このことから体外培養では、染色体異常以外の流産に及ぼす影響を胚は受けている可能性が考えられるので、体外培養はより慎重に行わなければいけないと深々感じています。Hatching 期移植は論理的であり、反復無効症例に対して画期的な手段かと思われましたが、それでも妊娠に至らない患者さんを目にすると本当に悔しい思いでいっぱいになります。私たちはそのような患者さんに対して何か有効な手段はないかと常に考えを巡らせています。

しかし、良好胚を移植しても妊娠に至らない患者さんもいらっしゃいます。そこでは子宮因子が考えられます。現在当院では妊娠が継続した場合と流産に終わった場合の子宮内サイトカインの発現量を比較し、サイトカインの妊娠に及ぼす影響についての研究も進んでいます。この研究から、未だ多くのことが解明されていない子宮における妊娠機序が拓けていけばと期待しています。

1、2 年前から学会を賑わせてきた Vitrification 凍結という胚の急速凍結保存法においても今年新たな展開をみせました。従来では Vitrification 凍結は桑実胚以上に成長した胚に対して使用しており、初期胚の凍結には Slow-cooling 法という緩慢凍結法を使用してきました。しかし最近では初期胚凍結にも Vitrification 凍結を、という施設が増えてき

ました。胚に対していかにダメージを無くすかという考えのもと、低濃度の耐凍剤を使用し、液体窒素中に胚をダイレクトに投入する方法が世間では広がりつつありましたが、液体窒素中ではウイルスは生存することが可能であり、胚への感染も否定できません。そこで当院は感染予防を目的とした凍結法を、半年間以上にわたってマウス胚での実験を繰り返し、検討をかさねました。その結果現在使用されている耐凍剤と同じ濃度の耐凍剤を使用しつつも胚をストローで封入し、液体窒素へ投入する方法を確立しました。その方法では従来の凍結方法と同等の成績を収めることができ、すでに妊娠例も得られました。この方法は 2003 年度日本受精着床学会世界体外受精会議記念賞候補にノミネートされました。今後は感染の危険を心配せず、安全に胚を凍結することが可能となり、また一歩技術が進みました。

1994 年、日本で初の顕微授精(ICSI)に成功し、革命的な男性不妊治療が登場しましたが、ここ数年、生殖医療の分野は大きく進歩しつつもこれほどの衝撃は現れていないように感じます。私たちは『一人でも多くの患者さんに赤ちゃんが授かるように』との思いで全国や、世界に目を向け、新しい技術を取り入れながら頑張っています。11 年目を迎え、今後は更なる向上を目指すと共に、一旦足元を見つめなおしそこから一人でも多くの患者さんの妊娠に繋がるよう、励んでいきたいと思います。

検査室　平井　香里

事務部

待合室のトイレに“らくがきノート”が置かれています。患者さん達の言葉で、言えない思いや聞きたいことなど何でも書いていただくノートです。

ノートの中には治療内容の件、今の自分の状況、家庭の事、治療費の事からスタッフへのお叱り、掃除の仕方に至るまでの様々な事が書かれています。院長先生は患者さんの質問、疑問その一つ一つに目を通しノートに答えを記入しています。内容によっては、週に一度の火曜日午後に開かれるスタッフ全員によるミーティングで検討される事もあります。

私共スタッフにとりましてはある意味で恐い“らくがきノート”の存在です。

患者さんの声にならない声ゆえに、今の苦しみがより強く伝わってきます。読んでいてやるせなくなったりします。同時に私共の至らなさを指摘されますと、顔から火の出るような恥ずかしい思いもします。そんな時は反省しきりです。

“今日はエアコンが効き過ぎて寒かったです”と書かれていますと、受付に一言声を掛けて下されば直ぐに対応させていただいたのに・・・と思う反面、受付窓口が声の掛け難い感じだろうか？などと考えさせられたりもします。私共に取りまして“らくがきノート”はいろいろな事を、考えたり反省したりさせていただく有難いノートでもあります。

その“らくがきノート”の中に『領収証内容がもっと内容が判りやすくなりませんか？』と時々書かれていました。私共もご指摘受ける以前より改善しなければならない懸案事項でした。その領収証の件が 2002 年の大きな受付の課題となりました。今までにも他の医療関係の領収証を参考にしたり、業者さんの説明を受けたりもしました。しかし院長先生の思いである【患者さんの立場に立った領収証】に近づく事が出来ませんでした。最後に選んだ手段はセント・ルカ産婦人科の独自のシステム開発でした。開発のテーマは【スーパ

ーマーケットの領収証】です。スーパーで買い物をしたら、すべての買い物の内容が表示されるように、本日の診療内容が注射の一本から検査内容すべて打ち出せる領収証を目指したのです。

当初は楽勝と思われた会計システムでしたが、なかなか思うように進まず一年を経過している状態です。現在は受付で使用しながら不具合を微調整している段階に入っています。出来上がった会計システムの領収証は一年間試行錯誤を重ねただけの事はある、非常に判りやすい患者さん側に立った領収証だと確信しています。患者さん方に渡せる日をとても楽しみにしています。

新しい会計システムの領収証の完成が迫っている頃、不妊治療の助成金について国や都道府県が認める方向で進むという嬉しいビックニュースが飛び込んで来ました。セント・ルカ産婦人科がずっと全国に呼びかけ取り組んで運動している保険適用には程遠いのですが、それでも不妊治療が認められた最初の一歩です。私はこの領収証開発に携わらせていただきましたが、まさか完成と同時に助成金が適用になろうとは夢に思わず、新聞を読んだ時には身震いしました。助成金申請の為に新しい会計システムの領収証が患者さん方に一番良いタイミングで提供できる事となったからです。何か目に見えない偶然を感じました。

これからも私共現状に満足する事なく日々努力して行きたいと思います。

事務部　渡邉佳代

情報処理室

2002年度は情報処理室にとって、大きな飛躍の年となりました。

第一に、2人体制から3人体制になったこと。
第二に、遂に新Sarah Base始動に向けての業者選定が終了し、新ソフト開発にむけ本格的に動き始めたこと。
第三に、セント・ルカ産婦人科も10周年を迎え、院長先生の恩師の先生方を講師先生としてお迎えし、内容の濃い、充実したセント・ルカセミナーの基幹部署として動かせていただいたこと。
第四に、署名運動の事務局として国会請願の書類作成に携わることができ、不妊治療の保険適用に向け少しでも患者さんのために動くことが出来たこと。

まず、人員体制ですが、二人から三人に増員された事により、4つの目から6つの目で見て気づける事ができるようになったわけです。院内のデータチェックや統計処理、スライド作成などにも、よりきめの細やかな気配りができるように日々努力していきたいと考えております。

次に、待望の「新　Sarah Base」ですが、長い時間をかけ業者を選定し、ヒアリングを重ね、本格稼動に向けあと1歩というところまできています。院内LANもさらに拡大し、クリーンルームや外来にまでネットワークを拡大し、タッチパネルを導入する事により、クリーンベンチで作業しながらの入力も可能となりました。これにより、精子のカウントなどは、クリーンベンチ内でカウント後、指定用紙に転記して精子数の計算を行い、カル

テに転記するという処理が、カウント時に新 Sarah Base へ入力することにより自動計算後即座にプリントアウトされ、カルテに貼れるようになりました。このことにより、転記する手間が省け記載ミスを防ぐ事ができます。精子関連の入力だけでなく、処置室やナースステーションにタッチパネルを導入する事により、卵管造影検査や腹腔鏡検査、妊娠判定検査結果などの入力が時間をおかずにデータに蓄積されることになり、最新の統計結果がすぐに得られることになります。特筆すべきことは、「新 Sarah Base」の導入活動により、昨年までパソコンを触るのさえ嫌がっていた看護部の職員から、入力を貯めたくないのですぐにでもナースステーションの「新 Sarah Base」を稼動して欲しいと要望があがってきていることです。

院内全体がともていい雰囲気で「新 Sarah Base」の本格稼動に向け動き出しています。

三番目には、当院の開院記念行事でもあるセント・ルカセミナーです。今年度は 10 周年を記念すべき盛大なセミナーとなりました。不妊治療に情熱を燃やす先生方が一堂に会し、熱気あふれるディスカッションを目の当たりにして、私たちの仕事の重要さを再認識し、ひとりでも多くの方が赤ちゃんを授かれるように、これからより一層自分の出来る事を尽くそうと心に誓える重要な体験となりました。2003 年度のセント・ルカセミナーは、学術セミナーと倫理セミナーに分かれて開催される予定です。1 人でも多くの患者さんにフィードバックできるように講師先生の貴重な講演を心に刻もうと思います。

最後は、患者さんが最も関心を持っている「保険適用に向けての活動」です。当院では、院長の号令のもと、2002 年度に 2 回の国会請願を行いました。アンケートの印刷、発送、署名のお願いの印刷、発送、返送されたアンケートや署名簿の集約・集計など、大変な作業の連続でした。通常の業務にプラスして、国会請願のための準備を行っていくことは、保険適用に向けての情熱がなくては出来ない作業でした。

「患者さんのために・・。」病院の利益を優先するのではなく、患者さんの利益を優先させる、院長のその言葉と行動が職員全体を納得させ、動かせていたのだろうと思います。

大分県や大分市では不妊治療に対する助成が決定しました。患者さんからの質問メールにも、助成に対する問合せがだんだんと増えてきています。メール返信の時、助成だけで終らず、保険適用に向けての活動を行っていきますのでこれからも協力をお願いします、と返信の末尾に付け加えると、ほとんどの患者さんからエールのメールが帰ってきます。1 人でも多くの患者さんが安心して治療を受けられるように、経済的理由で治療を諦めなくてもよい時代が来るように、「たくさんの病院が協力してくれますように」と願いを込めて 3 回目の国会請願に向けて資料を準備しようと思います。

2003 年度も 3 人でがっちりとスクラムを組んで院長の後ろを一生懸命追いかけてついていきたいと思っています。

この 1 年もまた、セント・ルカ産婦人科で貴重な体験や経験をさせていただいた事を感謝しています。

情報処理室　工藤由香

診　療　統　計

外来・入院数 (2001.4.1～2003.3.31)

	入　　院	外　　来
4月	105	1,795
5月	109	1,897
6月	104	1,738
7月	106	1,783
8月	134	1,791
9月	120	1,892
10月	117	1,914
11月	133	1,883
12月	117	1,658
1月	120	1,840
2月	107	1,733
3月	136	1,999
合計	1,408	21,923

入院数

(2001.4.1～2003.3.31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	15	15	14	9	20	19	16	14	16	16	14	17	185
子宮内容除去術（流産のため）	2	6	4	4	9	5	7	2	6	4	3	5	57
子宮筋腫核出術	2	5	2	3		2	1	2	2	1	1	3	24
卵胞穿刺術	2	1	1		2		2	1	1	1	1		12
経頸管子宮筋腫切除術（TCR）	1		1		1	2			1		5		11
子宮内膜掻爬術							3	2		2	2		9
腹腔鏡下子宮外妊娠手術		1	3	1	1	1						1	8
開腹手術（子宮全摘出術）				2		1							3
卵巣腫瘍核出術								2		1			3
開腹手術（双角子宮形成術）										1			1
減胎手術													0
合　計	22	28	25	19	33	30	29	23	26	26	26	26	313
安静入院													
卵巣過剰刺激症候群				1	2		2	3			3	1	12
切迫流産安静	1		2	2	1	1		1		2	1		11
その他								1					1
合　計	1	0	2	3	3	1	2	5	0	2	4	1	24
体外受精入院													
採卵	38	43	29	49	48	44	50	49	38	50	37	51	526
胚移植	27	25	26	28	38	32	23	39	29	25	31	39	362
凍結胚移植	17	13	22	7	12	13	13	17	23	17	9	18	181
GIFT, ZIFT, TET									1			1	2
合　計	82	81	77	84	98	89	86	105	91	92	77	109	1,071
入院総計	105	109	104	106	134	120	117	133	117	120	107	136	1,408

妊娠数　(1992.6.3～2003.3.31)

	周期	1992～1993	1993～1994	1994～1995	1995～1996	1996～1997	1997～1998
体外受精胚移植	採卵	104	235	270	259	300	328
	移植	75	174	209	219	263	268
	妊娠	6 (8.0 %)	30 (17.2 %)	60 (28.7 %)	54 (24.7 %)	56 (21.3 %)	55 (20.5 %)
顕微授精胚移植	採卵	0	66	197	235	249	222
	移植	0	43	154	208	236	185
	妊娠	0 (0.0 %)	4 (9.3 %)	19 (12.3 %)	38 (18.3 %)	35 (14.8 %)	34 (18.4 %)
凍結融解胚胚移植(ICSI後凍結含む)	凍結融解周期	2	3	9	26	57	92
	移植	2	3	9	25	57	90
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (11.1 %)	0 (0.0 %)	9 (15.8 %)	15 (16.7 %)
配偶子卵管内移植	採卵	13	43	27	12	10	15
	移植	12	42	27	12	10	15
	妊娠	2 (16.7 %)	12 (28.6 %)	8 (29.6 %)	4 (33.3 %)	3 (30.0 %)	5 (33.3 %)
接合子卵管内移植	採卵	0	0	0	8	8	1
	移植	0	0	0	8	8	1
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)
体外受精胚卵管内移植	採卵	0	8	4	7	2	2
	移植	0	7	4	6	2	2
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (14.3 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顕微授精胚卵管内移植	採卵	0	1	4	5	0	4
	移植	0	1	4	5	0	4
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (25.0 %)	2 (40.0 %)	0 (0.0 %)	1 (25.0 %)
凍結融解卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0	2
	移植	0	0	0	0	0	2
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (50.0 %)
小計	採卵	117	353	502	526	569	572
	凍結融解周期	2	3	9	26	57	94
	移植	89	270	407	483	576	567
	妊娠	8 (9.0 %)	47 (17.4 %)	90 (22.1 %)	99 (20.5 %)	104 (18.1 %)	111 (19.6 %)

ART以外の妊娠数	130	226	211	235	196	177
妊娠総数	138	273	301	334	300	288

妊娠数　(1992.6.3～2003.3.31)

	周期	1998～1999	1999～2000	2000～2001	2001～2002	2002～2003	合計
体外受精胚移植	採卵	285	220	142	124	178	2,445
	移植	239	184	116	93	129	1,969
	妊娠	56 (23.4 %)	48 (26.1 %)	44 (37.9 %)	32 (34.4 %)	47 (36.4 %)	488 (24.8 %)
顕微受精胚移植	採卵	271	356	325	377	347	2,645
	移植	231	283	242	272	219	2,073
	妊娠	33 (14.3 %)	36 (12.7 %)	55 (22.7 %)	59 (21.7 %)	51 (23.3 %)	364 (17.6 %)
凍結融解胚胚移植(ICSI後凍結含む)	凍結融解周期	143	105	185	197	261	1,080
	移植	139	92	163	134	177	891
	妊娠	33 (23.7 %)	23 (25.0 %)	40 (24.5 %)	43 (32.1 %)	47 (26.6 %)	211 (23.7 %)
配偶子卵管内移植	採卵	14	11	4	1	2	152
	移植	14	11	4	1	2	150
	妊娠	1 (7.1 %)	2 (18.2 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	38 (25.3 %)
接合子卵管内移植	採卵	12	4	10	0	0	43
	移植	12	4	10	0	0	43
	妊娠	2 (16.7 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (11.6 %)
体外受精胚卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	23
	移植	0	0	0	0	0	21
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (9.5 %)
顕微受精胚卵管内移植	採卵	2	0	1	0	0	17
	移植	2	0	1	0	0	17
	妊娠	1 (50.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (29.4 %)
凍結融解卵管内移植	凍結融解周期	1	0	0	0	0	3
	移植	1	0	0	0	0	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (33.3 %)
小計	採卵	584	591	482	502	527	5325
	凍結融解周期	144	105	185	197	261	1083
	移植	638	574	536	500	527	5,167
	妊娠	126 (19.7 %)	110 (19.2 %)	140 (26.1 %)	134 (26.8 %)	145 (27.5 %)	1,114 (21.6 %)

ART以外の妊娠数	178	161	165	171	158	2,008
妊娠総数	304	271	305	305	303	3,122

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます。

外来患者及び妊娠結果の内訳　(2003.3.31 現在)

1.当院の患者数

1) 開院 (1992.6.3) ～本年 (2003.3.31) までの外来患者数
11,452 人
(内訳) 男性　3,395 人 (29.6%) (平均年齢 33.2 才)
正常 1,304 人 (38.4%)　異常 2,091 人 (61.6%)
女性　8,057 人 (70.4%) (平均年齢 30.6 才)
・挙児希望の女性 5,747 人 (71.3%) (平均年齢 30.6±4.4 才)
・妊娠件数　3,121 件 (平均年齢 31.1±4.1 才)
・妊娠に至らなかった女性　3,032 人
2) 妊娠率(患者あたり)　47.2% {(5,747-3,032)/5,747}
3) 治療を途中で諦めた女性　2,769 人 (48.2%)
諦めざるをえなかった人(無精子症,早発閉経,高齢など)　515 人(9.0%)
いつの間にか諦めた人　2,254 人(39.2%)
4) 実妊娠率(患者あたり)　77.7% {(5,747-3,032)/ 5,747-(2,769-515)}

2.妊娠の内訳

他院へ紹介済	2,311 例	(74.05%)
流産	632 例	(20.25%)
子宮外妊娠	86 例	(2.75%)
胞状奇胎	13 例	(0.42%)
中絶	1 例	(0.03%)
不明	78 例	(2.50%)
計	3,121 例	(100%)

3.出産結果 (他院へ紹介済の 2,311 例中、妊娠結果が判明している 2,070 例について)

1)妊娠結果

満期産	1,780 例	(85.99%)
満期産＋死産*	1 例	(0.05%)
満期産＋外妊*	1 例	(0.05%)
早産	229 例	(11.06%)
早産＋死産*	5 例	(0.24%)
過期産	12 例	(0.58%)
死産	19 例	(0.92%)
流産	18 例	(0.87%)
流産＋死産*	1 例	(0.05%)
奇形中絶	3 例	(0.14%)
人工妊娠中絶	1 例	(0.05%)
計	2,070 例	(100%)

＊双胎で 2 児の妊娠結果が異なる例

2)多胎妊娠について

単胎	1,842 例	(89.0%)	1,842 児
双胎	214 例	(10.3%)	428 児
品胎	14 例	(0.7%)	42 児
計	2,070 例	(100%)	2,312 児

3)出生児の状態

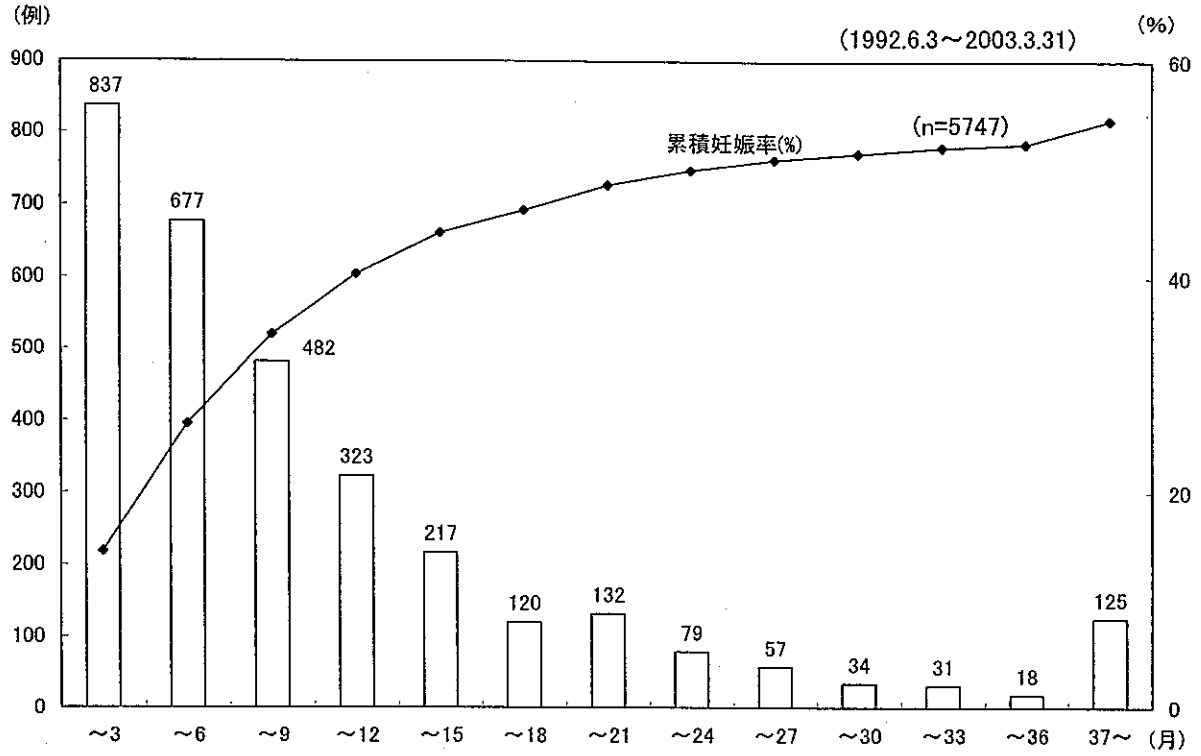
正常	1,728 児	(74.7%)
低体重児	427 児	(18.5%)
異常(高ビリルビン血症等含む)	157 児	(6.8%)
(うち奇形を含む主な異常)	(60 児)	(2.6%)
計	2,312 児	(100%)

4.妊娠に至った主たる有効治療

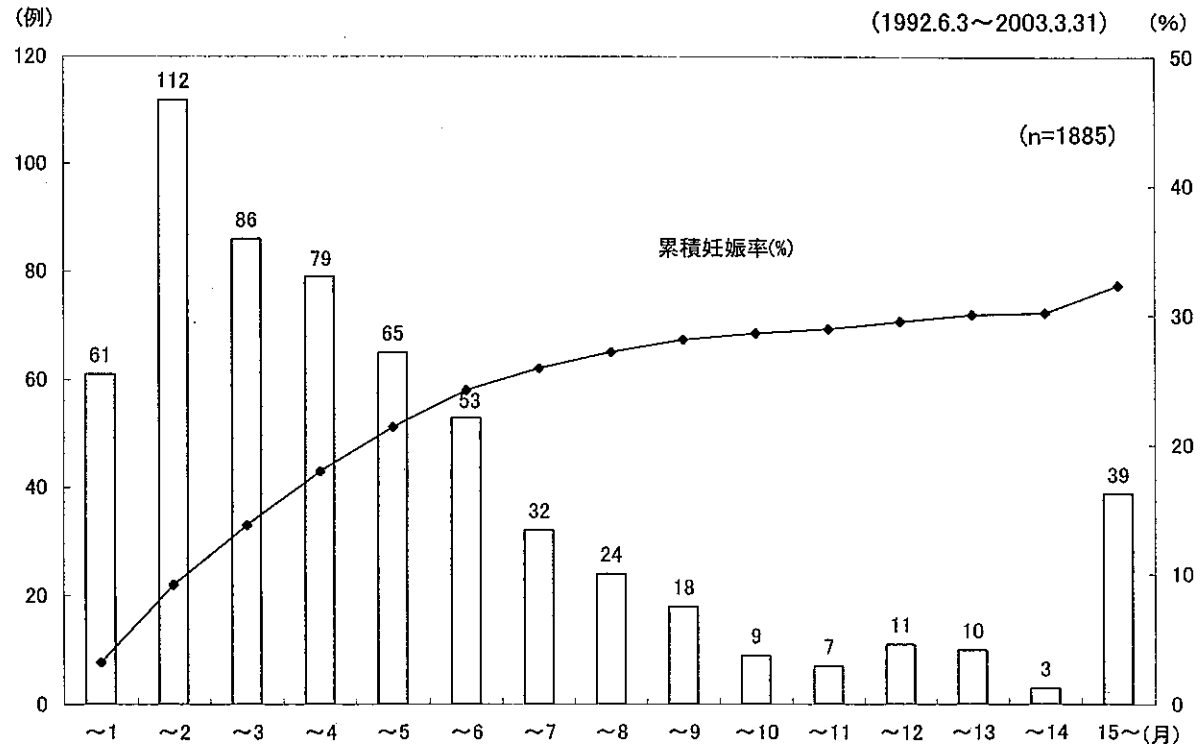
ART(生殖補助医療)全体	1,113 例	(35.7%)	
IVF-ET (体外受精)		489 例	(15.7%)
MF-ET (顕微授精)		369 例	(11.8%)
CRYO-ET(凍結胚移植)		212 例	(6.8%)
GIFT(胚偶子卵管内移植法)		38 例	(1.2%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)		5 例	(0.2%)
ART 以外	2,008 例	(64.3%)	
AIH(人工授精)		581 例	(18.6%)
HMG-HCG		337 例	(10.8%)
クロミフェン		292 例	(9.4%)
タイミング指導		219 例	(7.0%)
ヒューナーテスト時		189 例	(6.0%)
HSG 直後		138 例	(4.4%)
腹腔鏡検査後自然妊娠		128 例	(4.1%)
リンパ球免疫療法		15 例	(0.5%)
その他		109 例	(3.5%)
計		3,121 例	(100%)

(2003/3/31　セント・ルカ産婦人科)

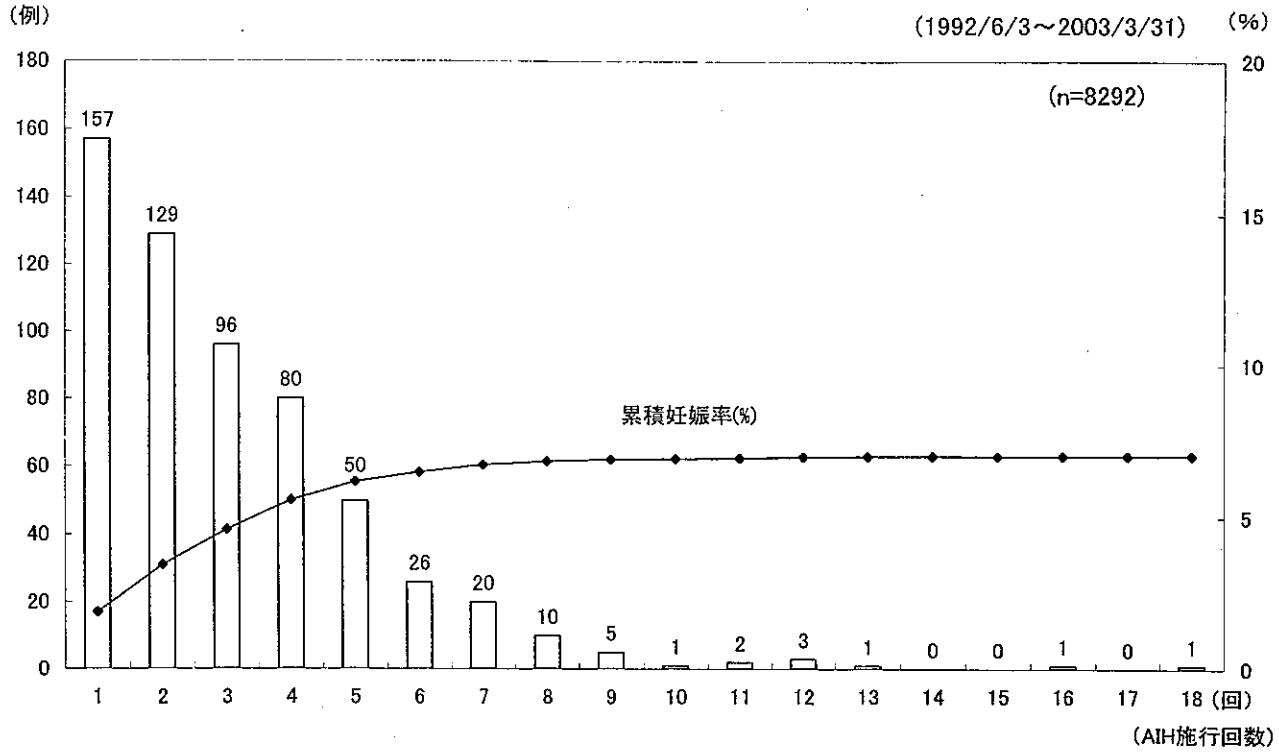
初診後妊娠までの期間



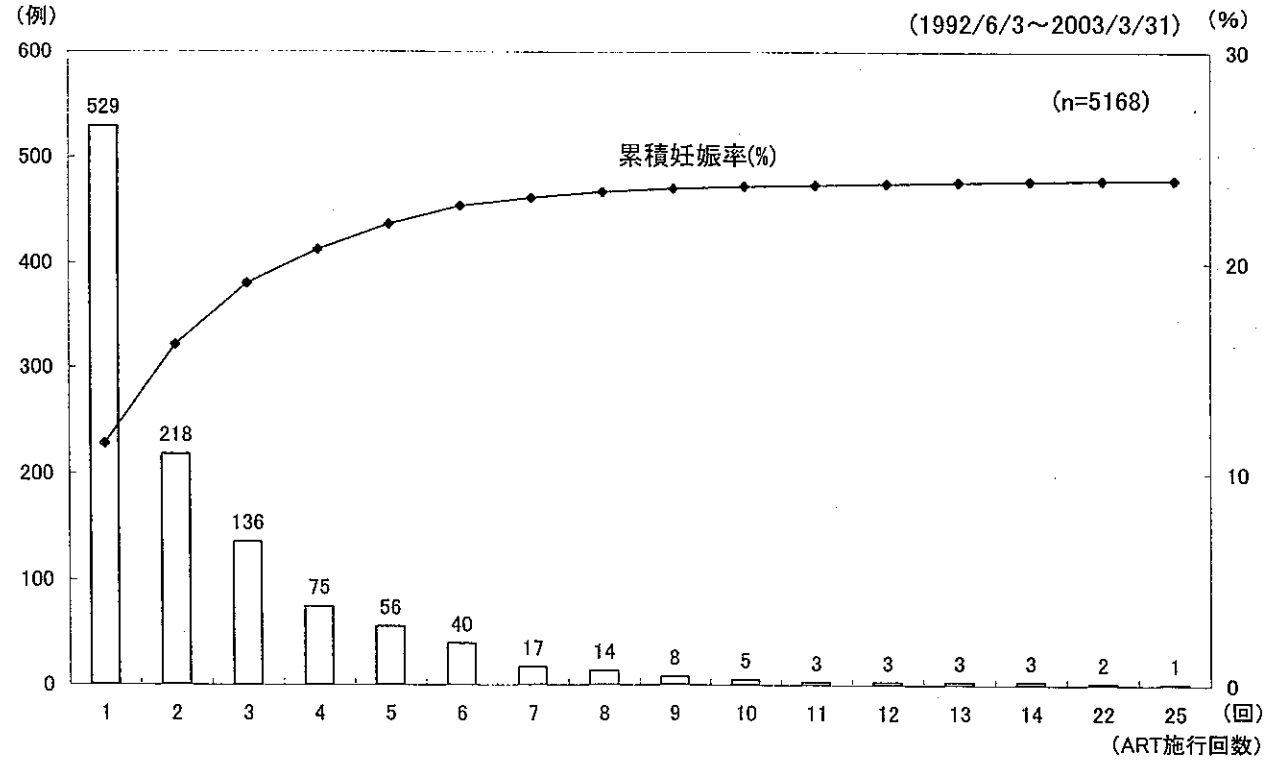
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



AIH(人工授精)による妊娠(流産等含む)



ART(生殖補助技術/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



ARTによる妊娠 (1992.6.3～2003.3.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	2,468	1,990 (80.6 %)	490 (24.6 %)	126 (25.7 %)
MF-ET	2,662	2,090 (78.5 %)	369 (17.7 %)	119 (32.2 %)
(ICSI)	2,408	1,992 (82.7 %)	358 (18.0 %)	114 (31.8 %)
GIFT	152	150 (98.7 %)	38 (25.3 %)	13 (34.2 %)
ZIFT	43	43 (100 %)	5 (11.6 %)	1 (20.0 %)
CRYO-ET	1,083	894 (82.5 %)	212 (23.7 %)	53 (25.0 %)
ART. total	6,408	5,167 (80.6 %)	1,114 (21.6 %)	312 (28.0 %)

ARTによる出産および出生児の状況 (1992.6.3～2003.3.31)

出産周期	669周期	妊娠結果が判明している669周期に限る			
妊娠結果	満期産	509周期 (76.08%)	過期産	2 周期(0.30%)	
	満期産、外妊	1周期 (0.15%)	死産	7 周期(1.05%)	
	満期産、死産	1周期 (0.15%)	流産	10 周期(1.49%)	
	早産	132周期 (19.73%)	流死産	1 周期(0.15%)	
	早産、死産	4周期 (0.60%)	奇形中絶	2 周期(0.30%)	
多胎妊娠について	839児	単胎	510 例 (76.2%)	510 児	
		双胎	148 例 (22.1%)	296 児	
		品胎	11 例 (1.7%)	33 児	
低体重児	255児	(30.4%)			
異常児	80児	(9.5%)	うち奇形を含む主な異常	37児 (4.4%)	

セント・ルカ産婦人科　1年のあゆみ

(2002.4.1～2003.3.31)

学会発表・・・・・・・・・	27題	
院　長	7	
看護部	9	
研究室	10	
情報処理室	1	
学会講演会参加・・・・・	28回	
研修会・・・・・・・・・・	7回	
論文・・・・・・・・・・・	16編	
著書（共著）・・・・・・	2編	
主催講演・・・・・・・・・	5回	
セント・ルカセミナー	1	総参加人数　59名
セント・ルカミニセミナー	1	総参加人数　16名
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	3	総参加人数 148名
院長講演・・・・・・・・・	1回	
不妊カウンセラー活動・・	26回	
体外受精教室	13	総参加人数 332名
ガーネットサークル	3	総参加人数　28名
オリーブの会	10	総参加人数　47名
見学院内講習会参加・・・	4回	
高度生殖医療技術研究所所長 荒木康久先生ご来院ご指導	3	
他施設見学	1	
不妊治療の保険適用に向けての活動・	4回	
署名運動	2	
国会請願	2	

行事一覧(1)

2002	4. 6	第54回日本産婦人科学会（東京国際フォーラム）参加＜院長＞
	4.12	第15回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分） 参加＜佐藤順、工藤由、梅田、越名、渡邉、佐藤晶、佐藤千、友永、城戸、公文、平井、大津、長木、中野、永石、篠田、工藤い、松元、斉高、品矢、柴田、磯崎、指山、院長＞
	4.13	福井医科大学産科婦人科学教室　教授　小辻文和先生ご来院
	4.14	SarahBase山王病院納入（東京）　導入＜工藤由、長木＞
	4.18	新SarahBase再構築着手
	4.20	第3回産婦人科情報処理担当者会（三重）　参加＜工藤由＞
	4.20	第59回日本不妊学会春季九州支部会（福岡） 発表＜佐藤晶、平井、原井、上野＞　参加＜大津、院長＞ 「FISH法を用いた異常受精卵の解析」（佐藤晶子） 「Implantation windowを考慮した Vitrification凍結融解の検討」（平井香里） 「不妊症夫婦の治療を通しての 夫婦関係の移り変わりについての検討」（原井淳子） 「不妊症患者の悩みの現状とケアのありかた －心理相談室より－」（上野桂子）
	4.20	第61回体外受精教室　参加者 32名 参加＜佐藤順、友永、公文、長木、中野、工藤い、関、斉高、指山＞
	4.22	高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導
	4.25	不妊治療医療保険適用署名運動　不妊治療施行施設149施設にアンケート送付
	4.27	日本哺乳動物卵子学会認定 生殖補助医療胚培養士資格審査 受験＜城戸、公文、平井、大津、熊迫、長木＞
	4.27	第6回オリーブの会　参加者 7名
	5.11	第14回ガーネットサークル　OG 2名、参加者 11名
	5.17	セントマザー産婦人科医院施設見学（北九州）　参加＜佐藤千、熊迫、長木＞
	5.23	Seagaia Meeting 2002（宮崎）　参加＜佐藤順＞
	5.25	第62回体外受精教室　参加者 37名 参加＜油布、佐藤千、永石、中野、工藤い、小濱＞
	5.25	第7回オリーブの会　参加者 6名
	5.30	哺乳動物卵子学会（和歌山）　参加〈城戸、公文〉
	5.30	不妊治療保険適用署名運動　国会請願
	6. 1	新職員　油布亜紀子さん（情報処理室）
	6. 8	『レッツ・トーク不妊！』（東京）　参加＜實﨑、品矢、上野＞

行事一覧(2)

6.15	第14回内視鏡下外科手術研究会（大分）　発表<院長>　参加<松元、宿利> 「当院におけるTCRの経験」
6.22	第63回体外受精教室　参加者 27名 参加<油布、佐藤順、工藤い、小濱、河口、品矢>
6.22	第8回オリーブの会　参加者 9名
6.28	4th World Congress of A PART (Wien)　参加<原井、磯崎、院長>
6.30	2002:ESHRE 18th Annual Meeting of The European Society of Human Reproduction and Embryology (Wien) 発表<院長>　参加<原井、磯崎、院長> 「The Efficacy of Hatching Stage Embryo Transfer in IVF-ET」（院長）
7. 6	第11回赤ちゃんが欲しい講座（大分・トキハ会館６F　さくらの間）参加45名 講師<院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生> 参加<油布、佐藤順、工藤由、越名、関、河口、品矢、磯崎、指山>
7.13	大分職業能力開発促進センター　「Access データベースⅠ」 受講<油布、工藤由>
7.13	第64回体外受精教室　参加者 14名 参加<佐藤順、渡邉、友永、長木、中野、松元、関、磯崎>
7.14	日本産婦人科学会大分支部会（大分）　発表<院長> 「当院の成績」
7.22	新職員　田﨑かおりさん（看護部）
7.22	関西テレビ放送取材のため来院
7.26	日本産婦人科学会大分支部会　特別講演会（大分）　発表<院長> 「体外受精について」
7.27	第9回オリーブの会　参加者 7名
7.28	Reproductive Biology -Tokyo Symposium-（東京） 参加<公文、熊迫、長木、院長>
8. 3	大分職業能力開発促進センター　「Access データベースⅡ」 受講<油布、工藤由>
8.17	第65回体外受精教室　参加者 24名　参加<田﨑、小濱、工藤い>
8.17	第10回オリーブの会　参加者 2名
8.20	『赤ちゃん～今ならきっと授かる』出版
8.20	10周年記念誌完成
8.24	第9回セント・ルカセミナー懇親会（湯布院）

行事一覧(3)

8.25	第9回セント・ルカセミナー（セント・ルカ多目的ホール） 講師　森本　義晴　先生＜IVF大阪クリニック＞ 「ART現場で精液をどう読み切るか？」 講師　田中　　温　　先生＜セントマザー産婦人科医院＞ 「不妊治療における染色体および遺伝子診断の有用性について」 講師　高橋　克彦　先生＜広島HARTクリニック＞ 「Convenient IVF　～GnRHアンダゴニストの有用性」 講師　加藤　　修　　先生＜加藤レディースクリニック＞ 「人生の目的とは　～生殖医療を通じて～」 座長　宮川　勇生　先生＜大分医科大学　産科婦人科　教授＞
8.25	第31回女性心身医学会学術集会（東京）　発表＜品矢＞　参加＜上野＞
8.26	高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導
8.30	The 3rd Conference of The Pacific Rim Society for Fertility and Sterility(台湾) 発表＜城戸、平井、實﨑＞　参加＜院長＞ 「Outcome of ICSI in non-male factor infertility」（城戸京子） 「Transfer of vitrified embryos in consideration of implantation window」（平井香里） 「The influence on couples treated with multifetal pregnancy reduction」（實﨑美奈）
9. 7	第15回ガーネットサークル　OG 2名、参加者 8名
9. 7	第2回ARMTフォーラム（東京）　参加＜佐藤晶、佐藤千、長木＞
9.14	大分職業能力開発促進センター　「表計算演習Ⅱ」　受講＜油布＞
9.21	第66回体外受精教室　参加者 32名　参加＜油布、田﨑、小浜、上野＞
9.21	第11回オリーブの会　参加者 4名
9.21	第2回不妊治療の保険適用署名運動　不妊治療施行施設386施設にアンケート送付
9.28	第38回QC発表大会（大分・アルメイダ病院） 参加＜工藤い、斉高、磯崎、指山＞
10. 3	第48日本不妊学会（岐阜）発表＜原井、上野＞　参加＜院長＞ 「不妊治療の各段階における夫婦関係の移り変わりについての検討」（原井淳子） 「不妊症患者の悩みの現状とサポートのありかた－心理相談室より」（上野桂子）
10. 3	第48回日本不妊学会／第20回日本受精着床学会ブース展示（岐阜）＜佐藤順＞

行事一覧(4)

10. 5	第20回日本受精着床学会（岐阜） 発表＜佐藤晶、友永、平井、長木＞　参加＜院長＞ 「FISH法を用いた異常受精卵の解析」（佐藤晶子） 「ガラス化凍結Hamster Oocytesは ハムスターテストに応用可能か？」（友永　寛） 「Imprantation Windowを考慮した Vitrification凍結融解法の検討」（平井香里） 「凍結融解胚移植におけるHatching Stage胚移植の臨床成績」（長木美幸）
10. 6	セント・ルカミニセミナー（セント・ルカ多目的ホール） 講師　Henry E. Malter　先生＜St.Barnabas Medical Center＞ 講師　Santiago Munne　先生＜St.Barnabas Medical Center＞ 通訳（高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生） 座長　鈴森　薫　先生＜名古屋市立大学　教授＞
10.7	高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導
10.9	大分県立大分豊府高等学校　性教育（大分）講師＜院長＞ 参加＜油布、佐藤順、梅田、渡邉、佐藤晶、城戸＞
10.19	第12回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座 （大分・トキハ会館６F　さくらの間）参加 50名 講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞　参加＜油布、佐藤順、渡邉、城戸、田﨑、工藤い、赤嶺、品矢、磯崎、指山、上野＞
10.26	第67回体外受精教室　参加者 32名　参加＜油布、田﨑、小濱、磯崎＞
10.26	第12回オリーブの会　参加者 2名
10.27	第20回おぎゃー基金推進月間記念講演　参加＜斉高、品矢、指山＞
11. 1	第16回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分） 参加＜油布、佐藤順、梅田、越名、渡邉、佐藤晶、佐藤千、友永、城戸、公文、熊迫、長木、田﨑、関、松元、小濱、斉高、實﨑、品矢、磯崎、指山、院長＞
11. 9	第5回IVF研究会（神戸）　参加＜佐藤千、公文、熊迫、院長＞
11.21	第33回大分市医師会医学会（大分）　発表＜佐藤晶、平井、松元、斉高＞ 「FISH法を用いた異常受精卵の解析」（佐藤晶子） 「Imprantation Windowを考慮した Vitrification凍結融解法の検討」（平井香里） 「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査 ―心の支えに関する検討―」（松元恵利子） 「不妊症夫婦の治療を通しての 夫婦関係の移り変わりについての検討」（斉高美穂）
11.25	新職員　越光直子さん（看護部）
11.30	第68回体外受精教室　参加者 37名　参加＜佐藤順、熊迫、長木、小濱、磯崎＞
11.30	第13回オリーブの会　参加者 6名

行事一覧(5)

	12. 2	新職員　江藤貴美さん（看護部）
	12. 4	第2回　不妊治療の保険適用を含む公的補助を求める署名運動 国会請願（署名数 9,564名分）
	12.14	全国看護セミナー（宮崎）　参加＜柴田、上野＞
	12.21	第69回体外受精教室　参加者 24名 参加＜油布、大津、長木、小濱、原井、指山＞
	12.21	第13回オリーブの会　参加者 3名
	12.21	セント・ルカ産婦人科　忘年会（トキハ会館）
	12.24	セント・ルカ産婦人科　クリスマス会（セント・ルカ多目的ホール）
2003	1. 4	セント・ルカ産婦人科新年会（セント・ルカ多目的ホール）
	1.18	第70回体外受精教室　参加者 19名 参加＜佐藤順、渡邉、熊迫、越光、江藤、小濱、関、指山＞
	1.18	第14回オリーブの会　参加者 4名
	1.25	第13回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座 （大分・トキハ会館６F　さくらの間）参加者 53名 講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞　参加＜油布、佐藤順、梅田、佐藤千、長木、赤嶺、越光、江藤、品矢、磯崎、指山、上野＞
	2. 8	第1回日研セミナー・第7回日研シンポジウム（福岡） 発表＜院長＞　参加＜平井、長木、實﨑、品矢、原井、柴田、指山＞ 「妊娠困難例に対する胚盤胞期移植及びHatching期移植の成績」（院長）
	2.15	第17回ガーネットサークル　OG 1名、参加者 7名
	2.22	第71回体外受精教室　参加者 32名　参加＜油布、渡邉、熊迫、小濱＞
	2.22	第15回オリーブの会　参加者 3名
	2.22	滅菌セミナー（大分）　参加＜佐藤千、公文、柴田、磯崎、指山＞
	2.25	第80回大分周産期研究会（大分）　発表＜松元＞ 参加＜油布、佐藤、梅田、越名、渡邉、公文、篠田、二宮、赤嶺、實﨑、工藤い、品矢、柴田、指山、上野、院長＞ 「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙 －心の支えに関する検討－」（松元恵利子）
	3. 1	日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング（東京） 参加＜院長＞
	3. 6	特定化学物質作業主任技能講習会（大分）　参加＜柴田、指山＞
	3. 8	セミナー「医療と社会」第42回例会（青森） 参加＜品矢、柴田、院長＞
	3.15	第72回体外受精教室　参加者 22名 参加＜油布、長木、恵良、小濱、関＞

行事一覧(6)

3.22	福岡応用倫理研究会春期研修会（湯布院）　発表＜院長＞
4.1	新職員　恵良郁絵さん（看護部）
4.4	第16回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分） 参加＜油布、佐藤順、梅田、越名、渡邉、佐藤晶、佐藤千、城戸、平井、大津、熊迫、公文、長木、松元、實﨑、恵良、越光、江藤、品矢、指山、上野、院長＞
4.5	第14回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座 （大分・トキハ会館６Ｆ　さくらの間）参加者 54名 講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞ 参加＜油布、佐藤順、越名、佐藤晶、平井、江藤、恵良、赤嶺、篠田、品矢、指山、上野＞
4.5	セント・ルカ産婦人科＆メディテック・ルカ合同お花見（大分・裏川公園）
4.12	第16回オリーブの会　参加者 7名
4.13	第55回日本産婦人科学会（福岡）　参加＜佐藤千、大津、院長＞
4.18	日本哺乳動物卵子学会認定 生殖補助医療胚培養士資格認定試験 受験＜佐藤晶、佐藤千＞
4.19	第73回体外受精教室　参加者 33名 参加＜油布、大津、越光、江藤、恵良、関＞
4.21	ISO9001コンサルティング会社来院
4.27	情報処理担当者会（大分）　参加＜油布、佐藤順＞
4.27	第60回日本不妊学会九州支部会　発表＜公文、大津、松元、二宮、上野＞ 参加＜熊迫、院長＞ 「マウス前核期胚におけるストローを用いた ガラス化保存法の検討」（公文麻美） 「体外培養期間と流産組織染色体異常の関係」（大津英子） 「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査 －心の支えに関する検討－」（松元恵利子） 「不妊治療で妊娠困難な40歳以上の心理ケアのあり方 －サポート・グループの取り組みについて－」（二宮睦） 「サポート・グループ参加が不妊症患者の 心理的ストレスに及ぼす効果について」（上野桂子）
4.28	高度生殖医療技術研究所　所長　荒木康久先生ご来院・ご指導
5.13	大分県立看護科学大学　教授 宮﨑文子先生、講師 小西清美先生　御来院
5.17	44回日本哺乳動物卵子学会（東京）　参加＜佐藤晶、佐藤千、院長＞
5.19	アルメイダ会議　出席＜院長＞
5.24	第74回体外受精教室　参加者 47名　参加＜佐藤順、平井、恵良、松元、関＞
5.24	第18回ガーネットサークル　OG 1名、参加者 7名

行事一覧(7)

6.2	新職員　足立直美さん（看護部）
6.3	ISO9001コンサルティング会社来院（院内Meeting参加）
6.8	日本生殖医療標準化機関(JISART)キックオフミーティング（東京） 参加＜平井、柴田、院長＞
6.12	第3回ARMTフォーラム（東京）　発表＜公文＞　参加＜佐藤千、院長＞ 「安全性を考慮した前核期胚におけるガラス化保存法」（公文麻美）
6.14	第17回オリーブの会　参加者 4名
6.18	Dr. Douglas M. Saunders(The University of Sydney) ご来院
6.21	第15回大分内視鏡下外科手術研究会　発表＜院長＞　参加＜越光、品矢＞ 「当院における子宮外妊娠の腹腔鏡下手術について」
6.24	第84回大分周産期研究会　発表＜大津＞　参加＜工藤由、梅田、越名、渡邉、城戸、公文、平井、熊迫、長木、實﨑、松元、関、恵良、江藤、越光、工藤い、品矢、柴田、指山、上野、院長＞ 「初期流産と胎児染色体異常の関係」（大津英子）
6.29	The 19th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (Madrid)　発表＜院長＞　参加＜長木、佐藤晶＞ 「Efficacy of Hatching Stage Embryo Transfer in IVF-ET」（院長）
6.29	職員旅行（ハウステンボス組） 参加＜工藤由、松元、関、二宮、赤嶺、品矢、上野＞
7.5	第75回体外受精教室　参加者 37名 参加＜佐藤順、平井、大津、足立、恵良、篠田、関＞
7.6	日本産婦人科学会大分支部会（大分）　発表＜院長＞ 「当院における10年間の妊娠成績について」
7.12	第15回『赤ちゃん　～今ならきっと授かる～』講座 （大分・トキハ会館６Ｆ　さくらの間）参加者 53名 講師＜院長、おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生＞ 参加＜佐藤順、工藤由、渡邉、公文、熊迫、足立、恵良、江藤、越光、篠田、松元、赤嶺、品矢、指山、上野＞
7.14	片岡レディースクリニック（熊本）より研修のためご来院　大迫亮子先生
7.16	第162回大分市医師会産婦人科臨床検討会　参加＜院長＞
7.19	第76回体外受精教室　参加者 27名　参加＜工藤由、熊迫、足立、恵良、関＞
7.19	第1回第2期オリーブの会始動　参加者 5名
7.24	大分県立看護科学大学　特別講義　発表＜院長＞ 参加＜工藤由、實﨑、指山、工藤い、足立、恵良、熊迫、城戸＞ 「大分県立看護科学大学不妊症講座」（院長）
7.25	第43回日本産科婦人科内視鏡学会（京都）　参加＜院長＞

行事一覧(8)

7.26	生殖バイオロジー東京シンポジウム（東京）　参加<公文、熊迫、院長>
7.28	片岡レディースクリニック（熊本）より研修のためご来院　野仲由香理先生
8.1	新職員　清水幸美さん（看護部）
8.9	安田精神保健夏期講座４（東京） 乳幼児精神保健「真実を求める心」-ルーツの葛藤を生きる子どもらから学ぶ- 参加予定<城戸、長木、實﨑、品矢、指山、院長>
8.16	Bourn Hall Clinic における看護トレーニング（イギリス） 参加予定<柴田>
8.23	第10回セント･ルカセミナー懇親会（別府）
8.24	第10回セント・ルカセミナー（セント・ルカ多目的ホール） 講師　年森　清隆　先生<千葉大学大学院形態形成学教授> 「異常精子症と卵子活性化の関係」 講師　森　崇英　先生<醍醐渡邉クリニック、京都大学名誉教授> 「着床の仕組みにホルモンと免疫はどのように関与しているか」 講師　品川　信良　先生<弘前大学名誉教授> 「助妊・助産・助生・助死」 講師　当院で治療経験のある元患者さん（Ｍさん、Ｆさん） コメンテーター　宮川　勇生先生<大分医科大学　教授>
9.7	第3回ARMT実技講習会（東京）　参加予定<佐藤順、城戸、平井>
10.1	第48日本不妊学会（東京）発表予定<工藤由、大津、二宮、品矢、上野> 参加予定<院長> 「生殖医療領域におけるデータベース管理の重要性」（工藤由香） 「体外受精による体外培養期間と 流産組織染色体異常の関係」（大津英子） 「不妊治療困難な40歳以上の心理ケアのあり方 -サポート・グループの取り組みについて-」（二宮　睦） 「不妊治療患者における経済面の調査」（品矢悦子） 「サポート・グループ参加が不妊症患者の 心理的ストレスに及ぼす効果について」（上野桂子）
10.1	第48回日本不妊学会／第21回日本受精着床学会ブース展示（東京） 参加予定<油布、工藤由>
10.3	第21回日本受精着床学会（東京） 発表予定<公文、熊迫>　参加予定<院長> 「ストローを用いた安全な 前核期胚Vitrificationの検討」（公文麻美） 「ストローを用いた安全な 前核期胚Vitrificationの臨床応用」（熊迫陽子）
10.19	職員旅行（沖縄組　第1陣）
10.23	5th World Congress of A PART（東京）　参加予定<院長>
10.23	職員旅行（沖縄組　第2陣）

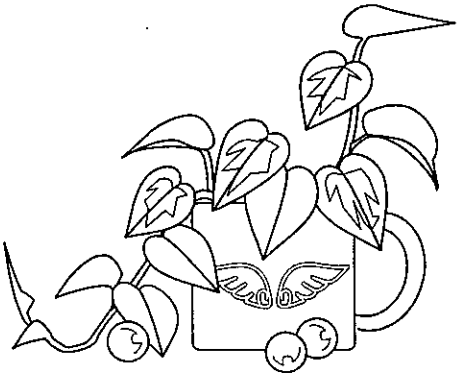
論文一覧

2002	「A prospective trial of blastocyst culture and transfer」（院長） Human Reproduction Volume17 Number7 July 2002 （掲載）
	「不妊治療の保険適用を求める」（院長） セミナー医療と社会　(No.22,November,2002)
	「How many times should we try ART?」（院長） Human Reproduction　（投稿中）
	「The Efficacy of Hatching Stage ET」（院長） Fertility Sterility　（投稿中）
	「Chromosome Analysis of Re-frozen Blastocysts」（検査部　大津英子） Journal of Assisted Reproduction and Genetics（投稿中）
	「The influence on couples treated with multifetal pregnancy reduction」 （看護部　實﨑美奈）　Human Reproduction（投稿中）
2003	「体外受精反復無効例に対するhatching stage 胚移植の試み」 （検査部　長木美幸）日本不妊学会雑誌　第48巻　第1,2号　（掲載）
	「不妊因子が卵管上皮細胞の培養に与える影響」（検査部　熊迫陽子） 日本不妊学会雑誌　第48巻　第1,2号　（掲載）
	「感染防止のためストローを用いた前核期胚vitrification法による 妊娠成功について」（検査部　熊迫陽子） 臨床婦人科産科　（投稿中）
	Successful pregnancy afer the vitrification of zygotes using commercial vitrification solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitorogen」（検査部　熊迫陽子） Fertility and Sterility　（投稿中）
	「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos derived from larger single pronuclei of human zygotes used in invitro fertilization」（検査部　大津英子） Fertility Sterility（投稿中）
	「新しく開発された培養液HFF99のヒト体外受精への臨床応用」 （検査部　平井香里）日本不妊学会雑誌　第48巻　第1,2号（掲載）
	「Implantationを考慮したVitrification凍結融解法の検討」 （検査部　平井香里）日本受精着床学会雑誌　20:75-77, 2003　（掲載）
	「A safe and simple vitrification method by using commercial vitrification solutions and straws in mouse pronuclear embryos」 （検査部　公文麻美）Journal of Manmmalian Ova Research（投稿中）
	「感染に対して安全なvitrification法のマウス前核期胚における検討」 （検査部　公文麻美）臨床婦人科産科　（投稿中）
	「男性因子以外の不妊原因におけるICSIの有用性」（検査部　城戸京子） 日本受精着床学会雑誌　20:156-158, 2003　（掲載）

	「体外受精において生じた大型１前核を持つ異常受精胚(1PN)の胚盤胞到達率とその染色体核型について」（検査部　佐藤晶子） 日本不妊学会雑誌　第48巻　第1,2号（掲載）
	「不妊症患者に対するサポートのあり方」（看護部　實﨑美奈） 日本不妊学会雑誌（印刷中）

著書（共著）一覧

2002	「生殖医療カウンセラーと心理的ケア」（院長） 図説 ARTマニュアル（永井書店）
	「赤ちゃん ～今ならきっと授かる～」（院長）



セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー　開催頻度：1回／1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年8月に行っている。

国内外から、著名な先生方をお招きして、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。

セミナー前日には、懇親会も行われ、医師、エンブリオロジストの貴重な情報交換の場として役立っている。セミナー開催にあたって、企画・立案・運営までを、全て当院で行っている。

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座　開催頻度：1回／3ヶ月

（不妊検査・治療についての説明会。主として初診間もない患者さんが対象）

2000年までは、2年毎の開催であったが、広く不妊治療を知ってもらう目的で、2001年からは、3ヶ月に1回、市内のホテルで行い、参加者の方が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。パソコンプロジェクターを使用し2時間程詳しく院長がお話をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の先生に、男性不妊の治療説明などをしていただき、次に当院OG（当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方）のお話を1時間程聞く事ができる。OG 自身の治療歴から始まり、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため好評である。

ガーネットサークル　開催頻度：1回／3ヶ月

（ART中の患者さんに対するART経験者によるアドバイスの会）

当院で10回前後体外受精を行い、出産へと至った方にお願いをして、現在体外受精を受けられている患者さん、これから受けられる患者さんとの交流の場を設けている。体外受精に対する精神的なストレスの発散場所として、経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないのだということの再認識もできる貴重な会である。

ガーネットサークルの由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

オリーブの会（第2期）　開催頻度：1回／1ヶ月

（比較的高齢者の患者さんの集い）

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんは近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ立ち上げられた会である。対象年齢を40歳以上とし、心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。

体外受精教室　開催頻度：1回／1ヶ月（毎月第4土曜日）

（ART にすすむ患者さんへの説明会）

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精治療の過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が2時間かけて分かりやすく説明している。パソコンプロジェクターを使用し、写真や画像を多用しているので、より身近に、より分かり易い内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じラインで体外受精について考える事ができ、その後の治療にも役立っている。

新患オリエンテーション　開催頻度：初診時

新患さんの検査、診察終了後に主任クラスの看護婦が行っている。1時間程かけて、写真や資料を使い患者さんへ病状の説明、今後の治療のすすみ方や費用面での説明をしている。また、診察時に患者さんが言えなかった訴えを受け止め、心配していることの相談などを行っている。

なんでも相談　開催頻度：毎週土曜日午後（予約制）

（主任クラスの看護師による相談）

不妊治療に従事する者として、不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に教育された看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

院長相談　開催頻度：毎週月・水・金の 18:00～（予約制）

普段の診療で聞けなかった事や、なんとなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく、ゆっくりと院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

心理専門相談室　開催頻度：毎週火・土の午前中（予約制）

2001 年より、専門の心理士による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。今後、さらなる需要が求められるであろう。

院内研修　開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の午後、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。

研究室・検査室からは、研究結果の発表、海外論文詳読、各部署より医療過誤につながりうる可能性のミスを報告し、今後の為に協議する「ハッとしたこと」報告、また、その週に治療を受ける患者さんについて、治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。

このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間をもうけ、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

ラボミーティング　開催頻度：毎朝 20 分程

研究室・検査室の職員と院長とで培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

その他　開催頻度：随時

手術前説明（院長）

手術内容と進め方について説明を行う。

手術後説明（院長）

手術時のビデオを見ながら、手術や予後の説明を行う。

ART ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（看護部）

体外受精に入る前の患者さんに体外受精の説明を行う。

ART 結果説明(1)（ラボ専任スタッフ）

体外受精・胚移植直後に、培養した胚の説明等を行う。

ART 結果説明(2)（看護部）

妊娠反応のチェック時に、結果説明と共に行う。

ART 結果説明(3)（ラボ専任スタッフ）

体外受精後、移植できなかった場合にその理由等を説明する。

体外受精に関する相談（ラボ専任スタッフ）

卵子・精子・胚に関する質問を随時受け付けている。

スタッフ配置

院　長　　宇津宮隆史

研究室・検査室

長木美幸、熊迫陽子、大津英子、平井香里、公文麻美
城戸京子、佐藤千賀子、佐藤晶子

看護部

指山実千代、柴田令子、原井淳子、品矢悦子、斉高美穂、工藤いづみ
越光直子、江藤貴美、恵良郁絵、清水幸美、二宮　睦、赤嶺佳枝
関こずえ、松元恵利子、篠田多加子、足立直美、實﨑美奈

心理専門相談室

上野桂子（心理士）

総務部

宇津宮富美子

事務部

渡邉佳代、越名久美、梅田麻衣

情報処理室

工藤由香、佐藤順子、油布亜紀子

厨房

後藤江美子、矢野千恵美、首藤清子

病院概要

名　　称	医療法人セント・ルカ　セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所
開設年月日	1992年6月3日
住　　所	〒870-0947 大分市津守富岡5組 TEL　097-568-6060 FAX　097-568-6299 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/ http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/imode（携帯電話用）
許可病床数	14床
職　員　数	総数37名

常勤医	1名	総務部	1名（兼任）
研究室	5名	事務部	3名
検査室	3名	情報処理室	3名
看護婦	9名	調理士	3名
准看護婦	8名	栄養士	1名
心理士	1名		

診療時間	月、水、金：　9:00～12:00 17:00～19:00（要予約） 火、木、土：　9:00～12:00 （祭日を除く）

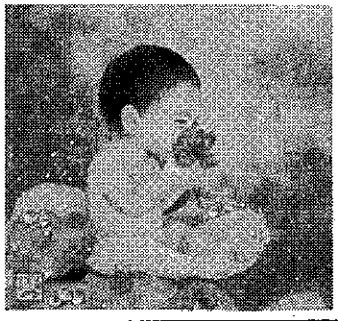
＜本年報の集計もSarahBaseを用いました＞

臨床データ管理・医学統計解析ソフト
さらに機能が充実しました。

NEW

Sarah Base

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0
Windows98/Me/2000/XP



日々の診療で得られたデータを整理し、保管し、
必要に応じて統計処理し、学会に発表する。
手間を掛けずにデータを蓄積し、手間を掛けずに
統計処理まで行う。そんな優れものがこのひと箱に･･･
頼りになる偉大な味方です。

•製品構成 SarahBase診療支援/データ抽出/統計解析/項目管理作成ツール/
入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/
レセコン請書情報取込(オプション) レセコン診療情報取込(オプション)
生殖医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション)/
備品類メンテナンスアラーム(オプション)
新機能:データ入力チェック・簡易集計等のマクロ言語ツール(仮称)
•動作環境CPU:Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)
OS:Windows 98/Me/2000/XP メモリ:128MB以上 ハードディスク空き容量: 100MB以上

(有)メディテック・ルカ　〒870-0947 大分市津守富岡5組セント・ルカ産婦人科内
TEL/FAX (097)554-8567
E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp
http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke

2002年度年報

2002年8月　発行
発　行：医療法人セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所
編　集：宇津宮　隆史
〒870-0947　大分市津守富岡５組
Tel 097-568-6060
Fax 097-568-6299
E-mail　st-luke@oct-net.ne.jp
http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/